

2F-12 化学視点からのアミロイド研究の新戦略 New Strategies for Amyloid Research (Amyloidoses and chemistry)

開催日時：12月4日（木）19:15～20:30

会場：第12会場（パシフィコ横浜 会議センター 4F「416+417」）

オーガナイザー：末武勲（神戸女子大学）、北條裕信（大阪大学）

概要

アミロイド病はアルツハイマー病をはじめとする神経変性疾患と深く関わっており、その発症機構の解明は重要な課題であるため、アミロイド線維形成における分子レベルでの病態理解に向けた最新の研究成果を紹介する。天然物による線維化抑制作用の評価、化学合成を用いた翻訳後修飾がタンパク質凝集に及ぼす影響、de novo ペプチドによる標的特異的相分離制御、量子ビームを用いたアミロイド線維の毒性の強さと原子・分子レベルにおける構造動態の相関解析、疾患の病態生理を作り出す in vivo 研究について注目して最新の研究成果について議論したい。

19:15 - 19:16 趣旨説明

末武勲（神戸女子大学）

19:16 - 19:27 アミロイドの線維化に対する天然物による抑制作用

末武勲（神戸女子大学）、宗正智（京都大学大学院）

19:27 - 19:42 化学合成によるタンパク質翻訳後修飾とその凝集能との関連解析

北條裕信（大阪大学）

19:42 - 19:57 De novo ペプチドによる標的特異的相分離制御

池之上 達哉（大阪大学）

19:57 - 20:12 量子ビームを用いたアミロイド線維の毒性の強さと原子・分子レベルにおける構造動態の相関解析

松尾龍人（広島国際大学）

20:12 - 20:27 パーキンソン病を引き起こす α シヌクレインの凝集と新しい翻訳後修飾

松本早紀子（名古屋大学大学院）

20:27 - 20:30 総括

北條裕信（大阪大学）